Management Club Report

May.2021/Vol.221

Monthly Opinion　≪日本の歯科医療文化を問う≫

組織の全員が特別に意識することなく行っている動きに美しさがある。全員の言葉遣いに知性が感じられる。午前の診療が終了したとき、いち早く手の空いたベテランスタッフがスリッパの消毒を当然のように率先して行う。院内ミーティングで全員が積極的に発言する。分からない言葉があった場合はためらわず質問が出る。朝一番の院長に対する挨拶のときに、前夜の院長主催の食事会のお礼を誰もが明るく言っている。

このような組織行動が定着している歯科医院でのそれらの言動態度というものは、院内における何かのルールで決められているわけではなく、院内の一人ひとりが、組織の一員としてごく自然に、また無意識に行っているもので、こういう無意識行動をリードしているものが組織文化なのです。

そしてそのような行動の基礎を形成しているのは、そこに流れる共通の美意識や価値観ですので、他の歯科医院が表面上を真似ることができたとしても組織文化そのものを模倣して自医院に取り入れることはできません。仮に、言葉遣いや行動を同じようにし、スリッパ消毒を誰かが行うようにし、ミーティングでの発言を義務付けたとしても、取り入れたものだけが似た形で実施されるようになるだけで、その美意識が他の場面でも美しく表現されるかといえば、それはそうはなりません。それが組織文化なのです。

個々の歯科医院に存在するそれぞれの組織文化を高めるように私たちも力を尽くしたいと思いますが、その前に多くの歯科医院に共通する、言ってみれば今の日本の歯科界全体を支えている『組織文化』があるように思いますので、その『日本の歯科医療文化』の特徴について今月は考えてみたいと思います。

1　国民皆保険制度の功罪

自己の利益追求の前に人格を磨け

現代の青年が、いまもっとも切実に必要としているのは、人格を磨くことだ。今日、儒教は古いとして退けられてしまったので、現代の青年たちには理解されなくなっている。かといって、キリスト教が一般の道徳の規範になっているわけではない。また何か新しい道徳が生まれたわけでもない。だから思想界はまったくの混乱状態で、国民はどれを信じてよいのか判断に苦しんでいるくらいだ。このため一般の青年は人格を磨くことを忘れ去っているように見える。

たとえば、社会現象を見てみよう。人は往々にして利己主義――自分だけが良